

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移
(最近の動向)

令和6年12月17日
四国森林管理局

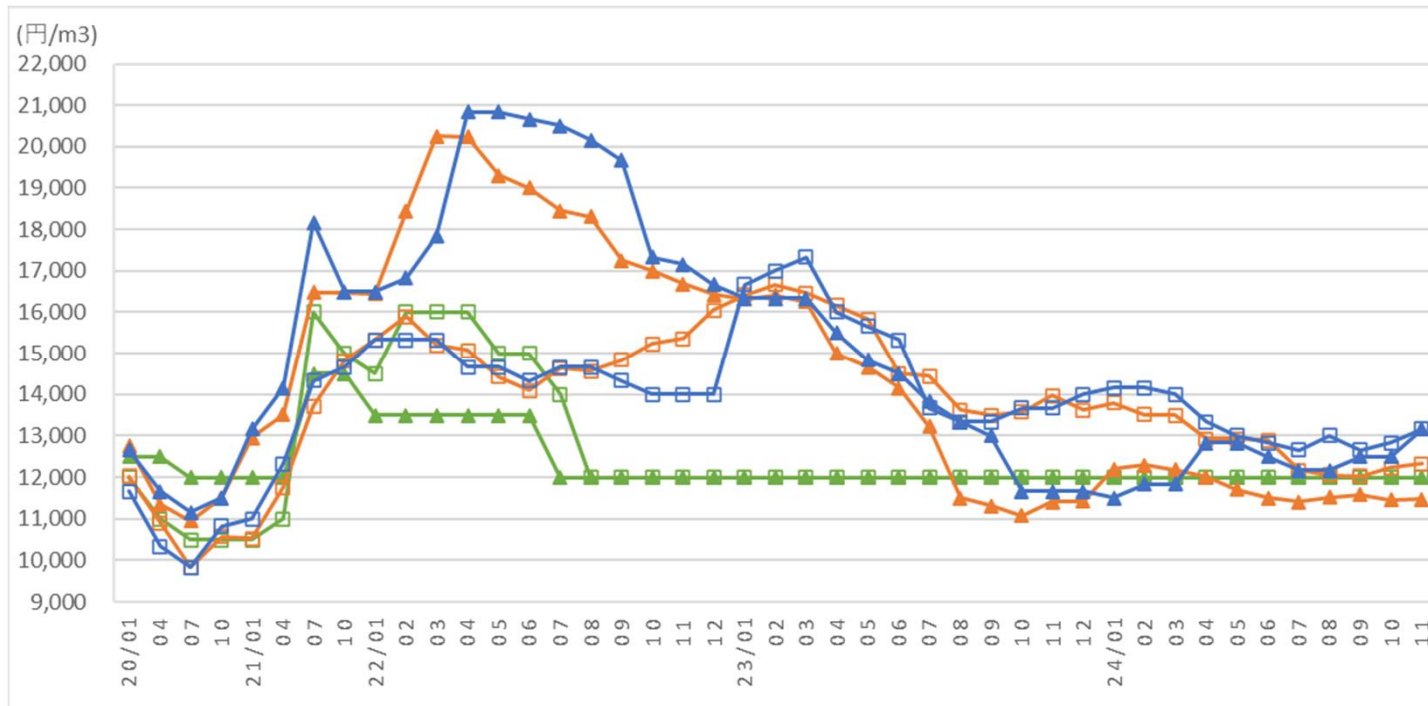
目次

I	管内における原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材の入荷量及び在庫量の推移	7
2	製材品の出荷量及び在庫量の推移	8
3	製材品価格の推移	9
III	全国の丸太価格の動向	10
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	12
2	全国の住宅着工戸数の推移	13

I 管内における原木市場・共販所の状況

1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 愛媛県、高知県では、令和5年4月以降3m材・4m材ともに下落が続いた。秋口には4m材に下げ止まり感がみられたが、3m材は更に下落した。令和6年に入って3mも底値を脱した感があったが、3m材・4m材ともに小幅な下落。直近では値上がり傾向にある。
- 徳島県は、令和4年7月以降引き合いが弱く、横ばいで推移している。
- 令和6年11月のスギ丸太価格は、前年同月比88%から113%で推移。



○ 11月のスギ丸太価格

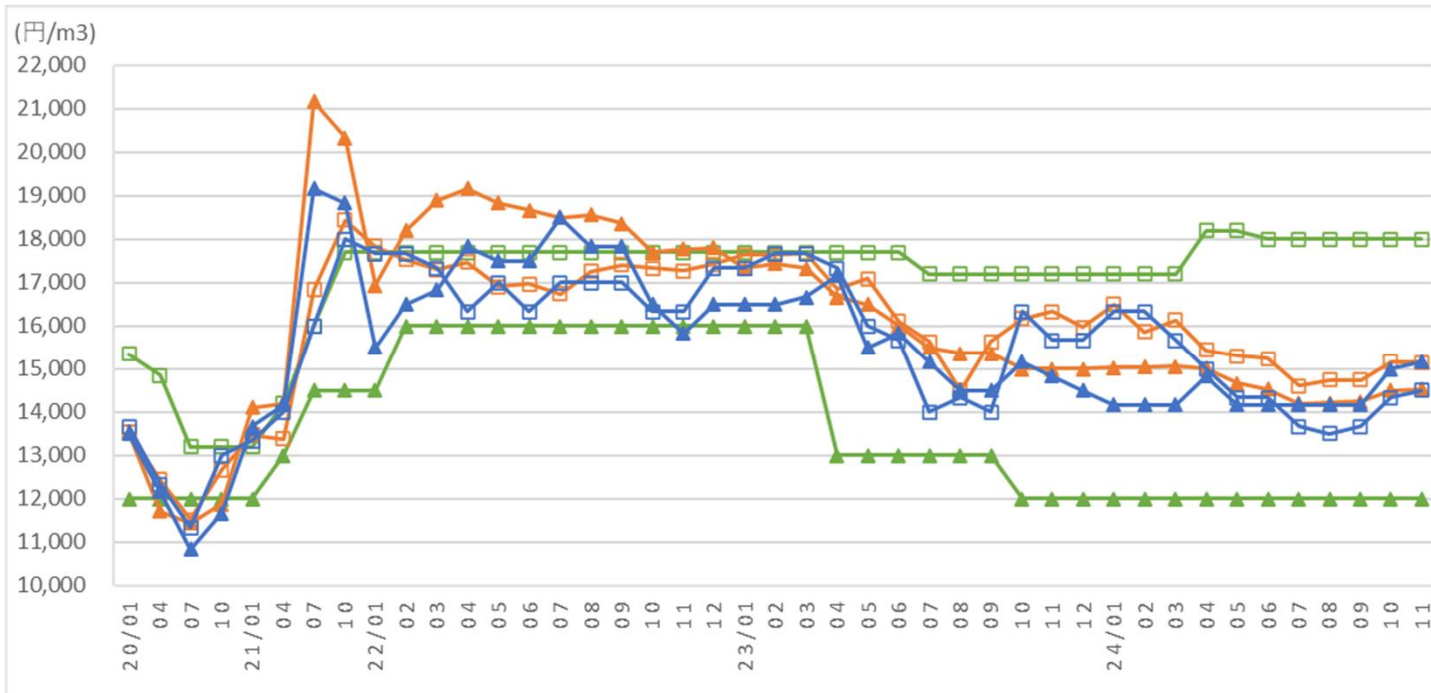
(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	▲ 3m材	12,000	12,000	100%
	□ 4m材	12,000	12,000	100%
愛媛県	▲ 3m材	11,482	11,417	101%
	□ 4m材	12,330	13,967	88%
高知県	▲ 3m材	13,167	11,667	113%
	□ 4m材	13,167	13,667	96%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格
資料：四国森林管理局調べ

1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和5年は、4月頃から引き合いが弱まり軟調相場となったものの、4m材は秋口から概ね安定。3m材は不安定な相場が続いた。
- 令和6年に入っても、3m材・4m材ともに小幅な値下げ傾向が続いたが、愛媛県、高知県については直近では値上がり傾向にある。
- 令和6年11月のスギ丸太価格は、前年同月比93%から105%で推移。



○ 11月のスギ丸太価格

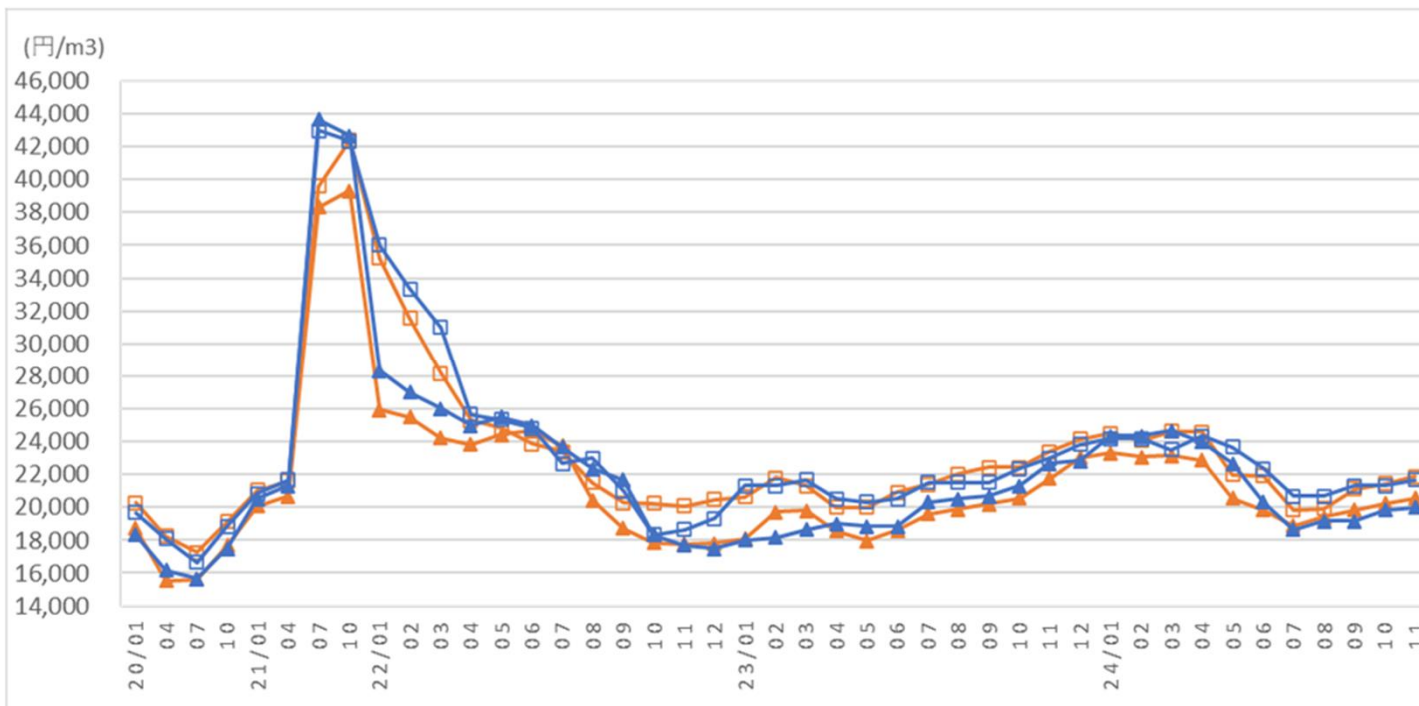
(円/m³)

県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
徳島県	▲ 3m材	12,000	12,000	100%
	□ 4m材	18,000	17,200	105%
愛媛県	▲ 3m材	14,520	15,000	97%
	□ 4m材	15,150	16,333	93%
高知県	▲ 3m材	15,167	14,833	102%
	□ 4m材	14,500	15,667	93%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格
資料：四国森林管理局調べ

1-(3)丸太価格の推移 (ヒノキ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和5年は小幅ながら、やや上げ基調の相場となった。
- 令和6年に入っても、概ね安定していたが4月頃からは、3m材・4m材ともに下落基調がみられた。直近では値上がり傾向にある。
- 令和6年11月のヒノキ丸太価格は、前年同月比88%から94%で推移。



○ 11月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

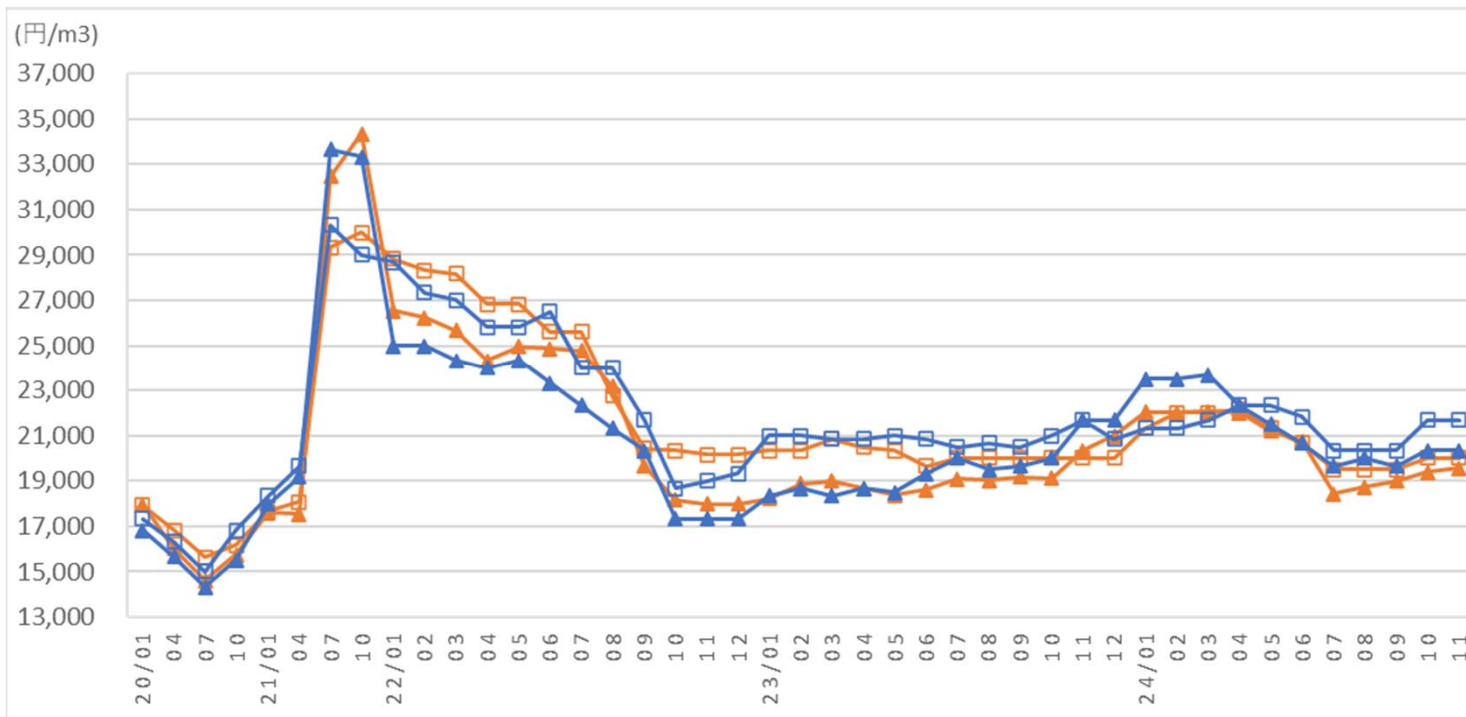
県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	▲ 3m材	20,541	21,757	94%
	□ 4m材	21,857	23,400	93%
高知県	▲ 3m材	20,000	22,667	88%
	□ 4m材	21,667	23,000	94%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格

資料：四国森林管理局調べ

1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和5年は概ね安定した相場が続き、10月以降は品薄感からやや上げ基調の相場となった。
- 令和6年に入っても概ね安定した状態が続いていたが4月頃からは、3m材・4m材ともに下落傾向に転じた。直近では値上がり傾向にある。
- 令和6年11月のヒノキ丸太価格は、前年同月比94%から100%で推移。



○ 11月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	▲ 3m材	19,567	20,333	96%
	□ 4m材	20,000	20,000	100%
高知県	▲ 3m材	20,333	21,667	94%
	□ 4m材	21,667	21,667	100%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格
資料：四国森林管理局調べ

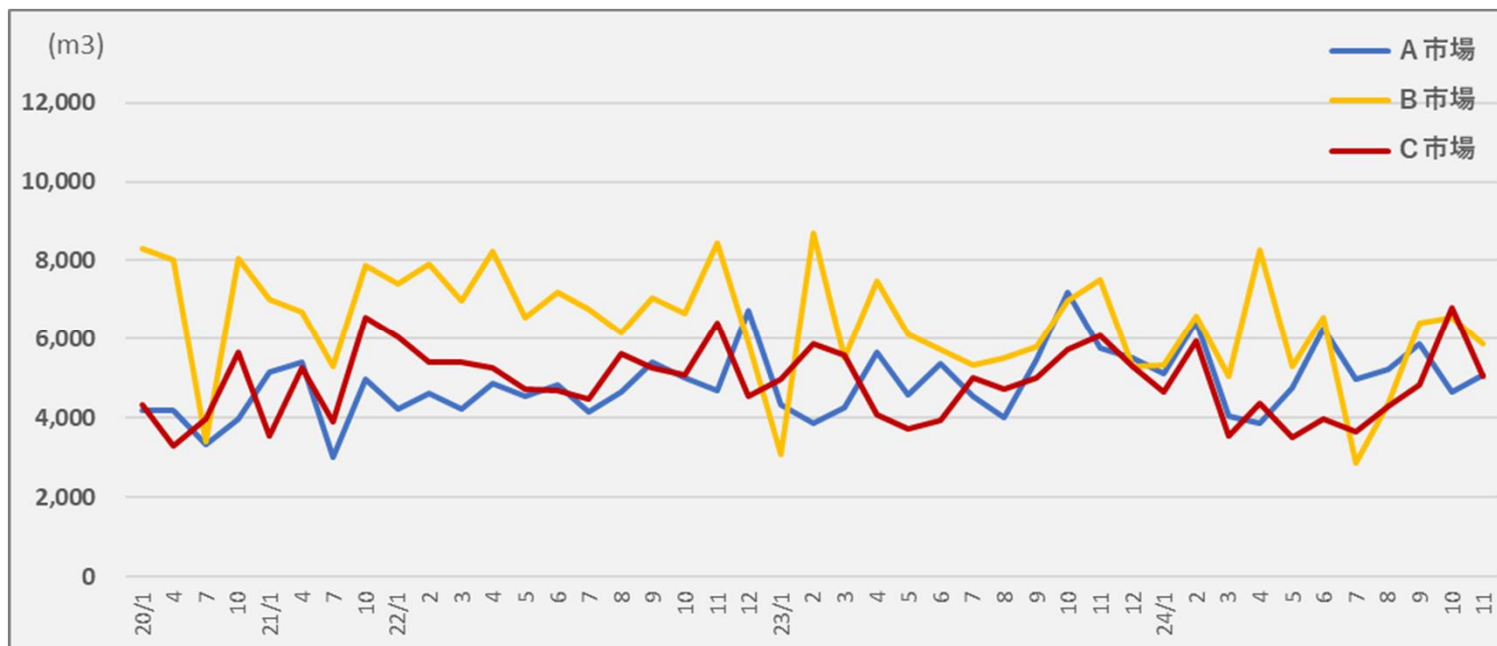
管内における原木市場・共販所の状況

2-(1) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

- 愛媛県内の主な原木市場・共販所における9月から11月の丸太取扱量は、市場によりバラツキはあるものの、概ね横ばい傾向にある。
- 直近3か月（9～11月）を、前年同時期と比べると92%で推移。

直近3か月（9～11月）の入荷量

	2024年	2023年	前年同期比
A市場	15,608	18,382	85%
B市場	18,829	20,282	93%
C市場	16,654	16,826	99%
計	51,091	55,490	92%



（市場関係者のコメント）

・スギ・ヒノキ共に出材量はほぼ横ばい。

・スギ・ヒノキ共に不足感から価格はやや値上がり傾向。銘柄によっては（スギの24上材）引き合いが強い。

・スギ・ヒノキ共に出材量が増えるまでは価格は維持されると思われる。

・スギ・ヒノキ共に原木不足の中、価格は値上がりが見込まれる。

・今年度中は高値を維持すると思われる。

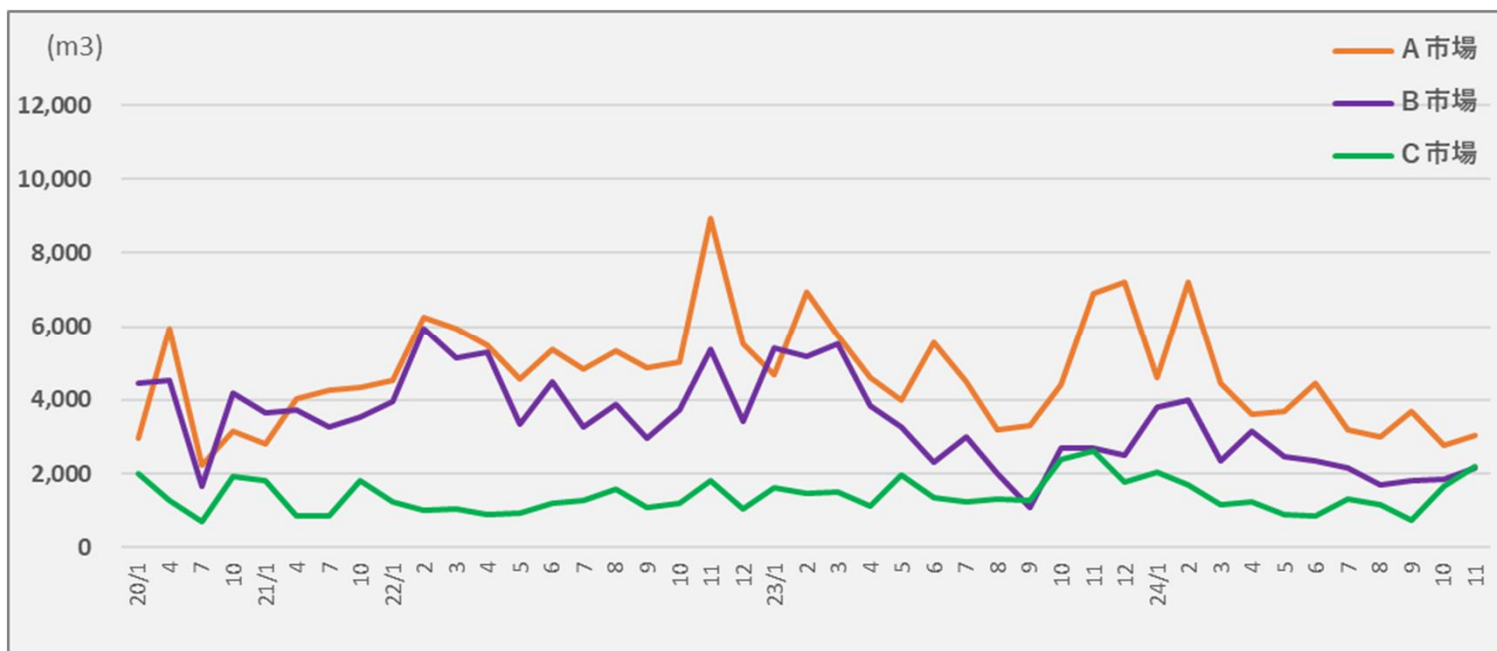
資料：四国森林管理局調べ

2-(2) 丸太取扱量の推移（高知県）

- 高知県内の主な原木市場・共販所における9月～11月の丸太取扱量は、夏場に比べればやや増加傾向にある。
- 直近3か月（9～11月）を、前年同時期と比べると73%で推移。

直近3か月（9～11月）の入荷量

	2024年	2023年	前年同期比
A市場	9,490	14,600	65%
B市場	5,800	6,459	90%
C市場	4,597	6,253	74%
計	19,887	27,312	73%



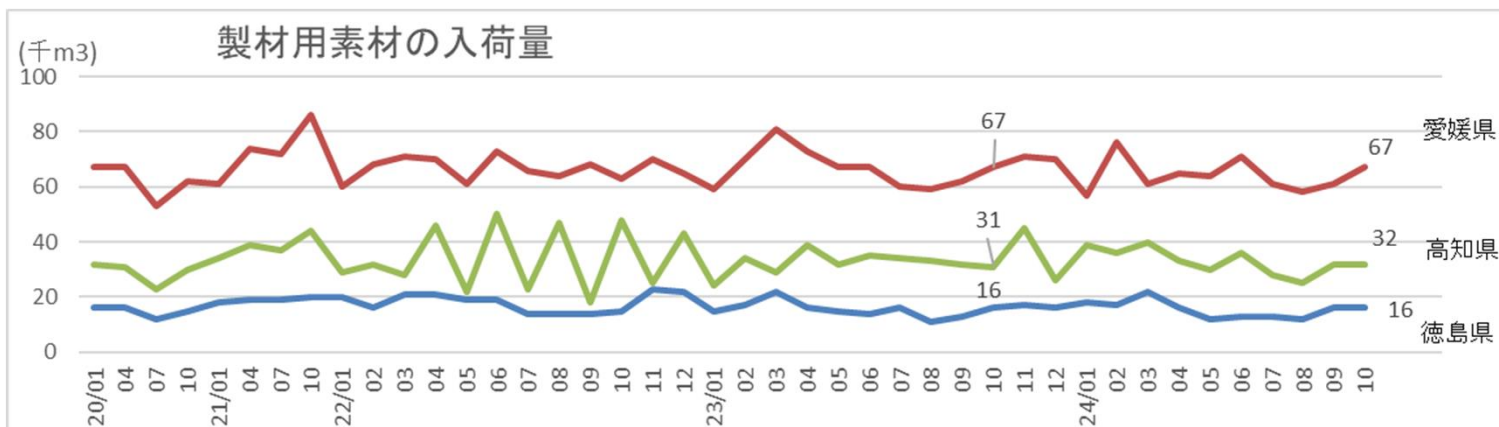
（市場関係者のコメント）

- ・入荷量は昨年に比べ減少しているが、直近では増加傾向にある。
- ・製品動向は悪いが、原木不足からスギ・ヒノキとも引き合いがある。
- ・原木在庫量が少ないため材の引き取りは良好。
- ・スギ・ヒノキ共しばらく品薄高。製品動向は先行き不透明。出材量が増えて需給バランスが崩れないか心配。

II 管内における製材等の状況

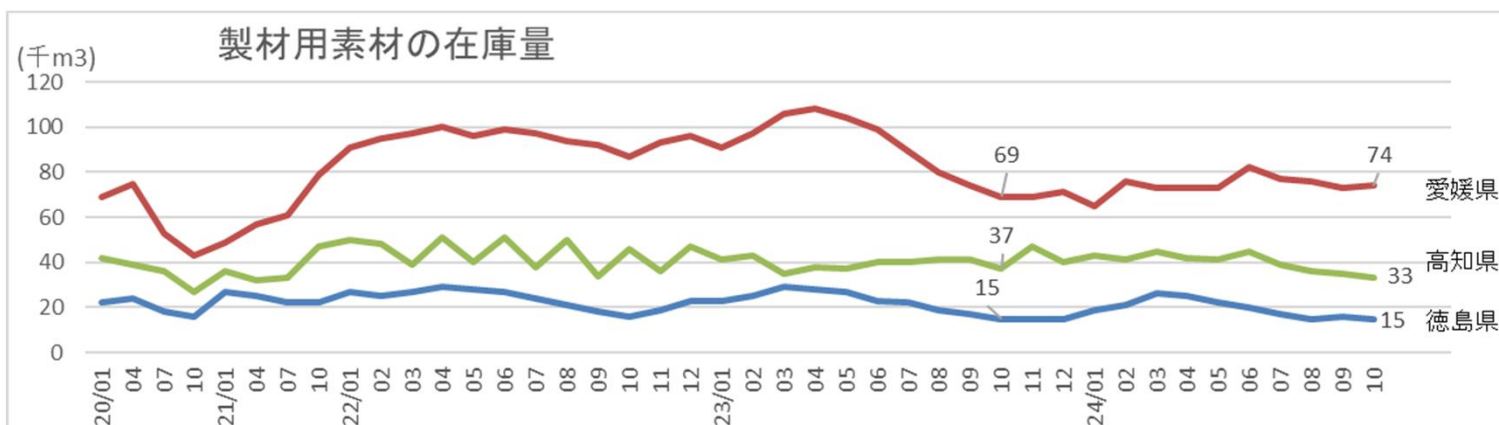
1. 製材用素材の入荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和6年）

- 四国の8～10月の製材用素材の入荷量は、319千m³（前年比98%）、徳島県は増加。愛媛県は横ばい、高知県は減少となった。
- 同期間の製材用素材の月平均在庫量は、41千m³（前年比93%）、徳島県、高知県は減少。愛媛県は横ばいとなった。



(千m³)

8～10月製材用素材入荷量			
	2024年	2023年	前年比
徳島	44	40	110%
愛媛	186	188	99%
高知	89	96	93%
四国計	319	324	98%

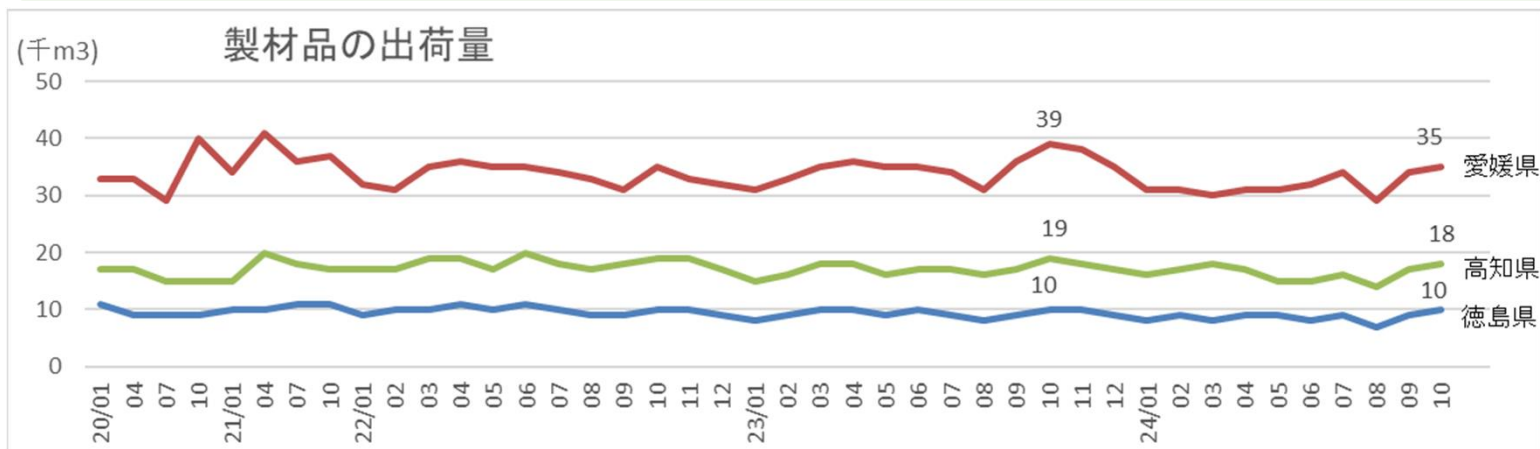


(千m³)

8～10月製材用素材在庫量(月平均)			
	2024年	2023年	前年比
徳島	15	17	88%
愛媛	74	74	100%
高知	35	40	88%
四国計	41	44	93%

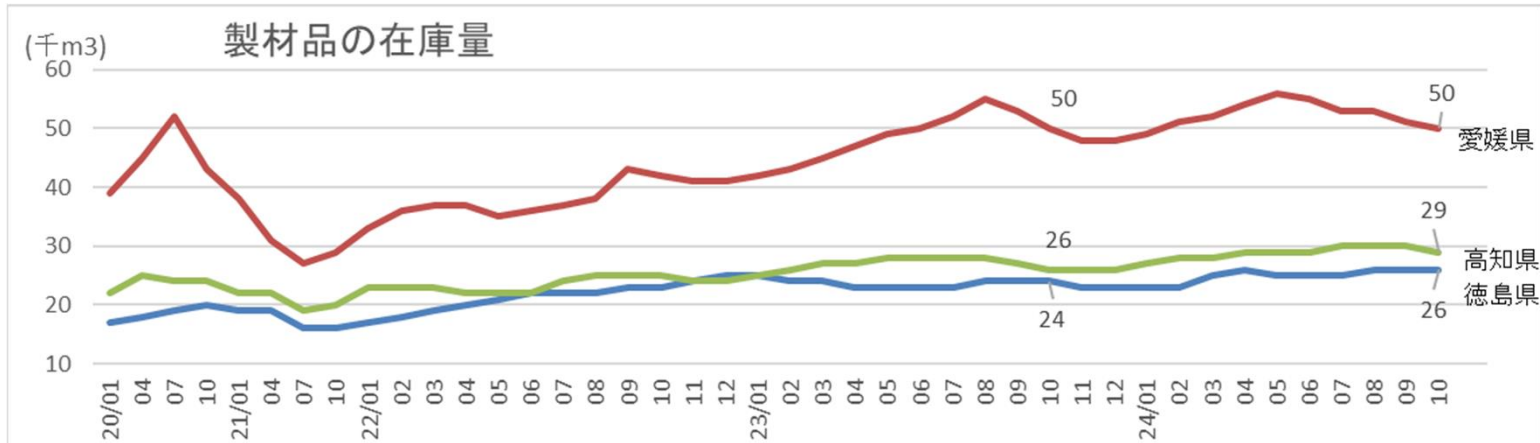
2. 製材品の出荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和6年）

- 四国の8～10月の製材品出荷量は、173千m³（前年比94%）、徳島県、愛媛県、高知県3県ともに減少となった。
- 同期間の製材品の月平均在庫量は、36千m³（前年比103%）、徳島県、高知県は増加。愛媛県は減少となった。



（千m³）

8～10月製材品出荷量			
	2024年	2023年	前年比
徳島	26	27	96%
愛媛	98	106	92%
高知	49	52	94%
四国計	173	185	94%

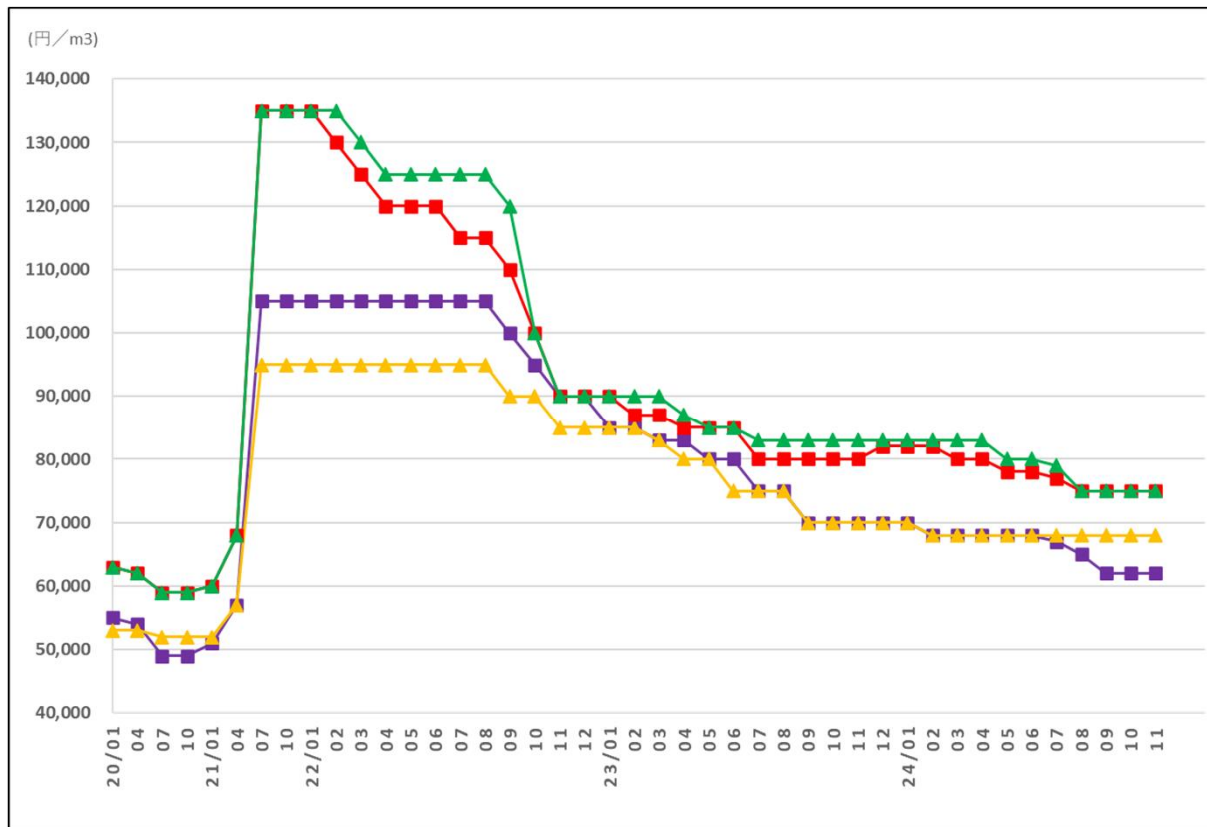


（千m³）

8～10月製材品在庫量（月平均）			
	2024年	2023年	前年比
徳島	26	24	108%
愛媛	51	53	96%
高知	30	27	111%
四国計	36	35	103%

3. 製材品価格の推移

- 令和5年は買い方の動きは悪く、価格は総じてジリ安傾向が続いた。
- 令和6年に入ってもスギ・ヒノキの製材品すべての品目において、前年同月比89%から97%で推移。



国産材製品の相場（愛媛県）令和6年11月

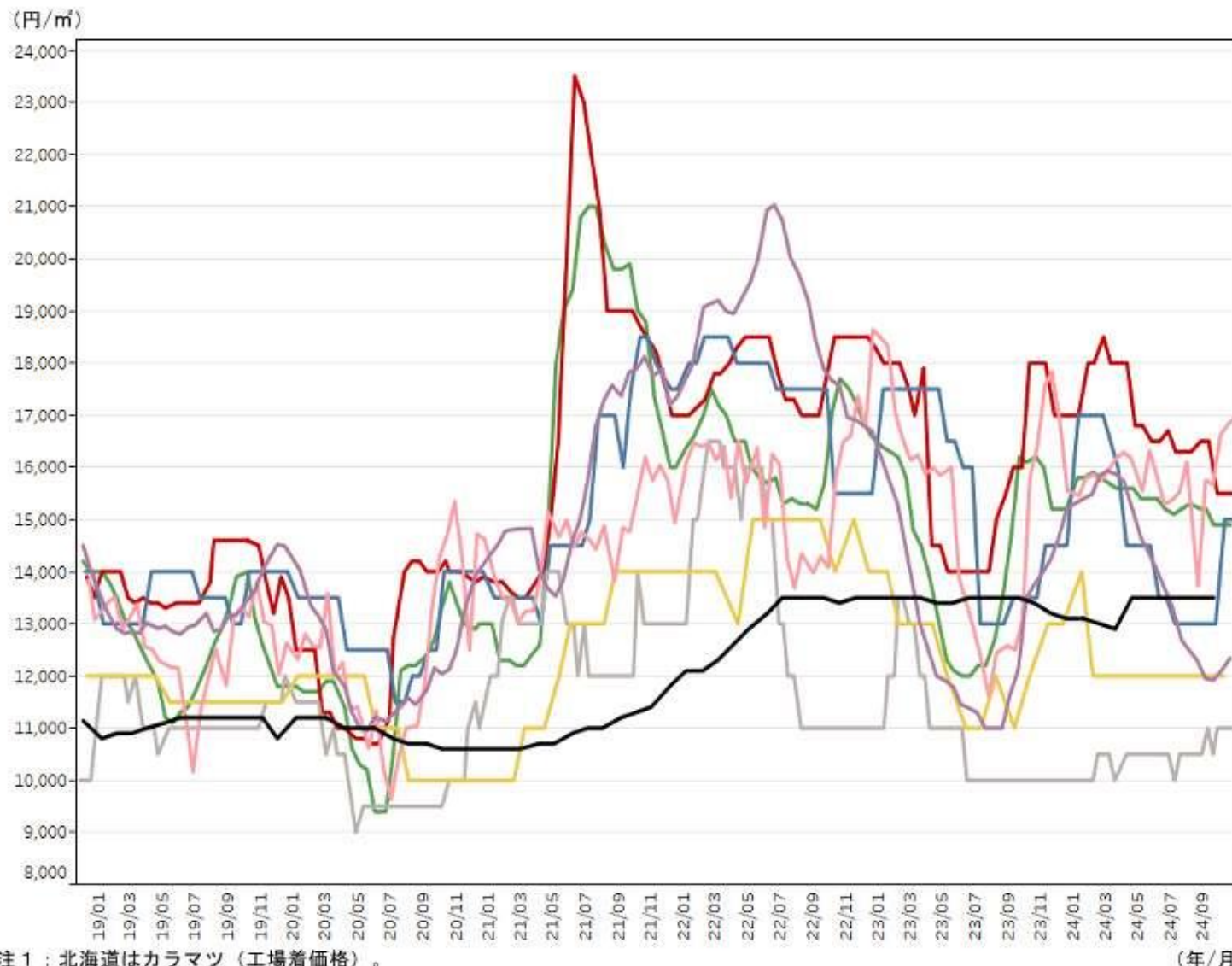
(円/m³)

品目	当月	前年同月	前年同月比
■ スギ柱 3m×105mm角KD特等	62,000	70,000	89%
▲ スギ間柱 3m×105×30mm角KD特等	68,000	70,000	97%
■ ヒノキ柱 3m×105mm角KD特等	75,000	80,000	94%
▲ ヒノキ土台 4m×105mm角KD特等	75,000	83,000	90%

Ⅲ 全国の丸太価格の動向

ア スギ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、**11,000円～16,960円/m³**となっている。



(単位：円/m³)

都道府県	2024年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,500	13,500	100%
秋田県	12,340	13,750	90%
栃木県	16,960	16,410	103%
長野県	12,000	12,000	100%
岡山県	11,000	10,000	110%
高知県	15,000	13,500	111%
熊本県	15,500	18,000	86%
宮崎県	14,900	16,200	92%

※北海道については9月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については10月の値を使用。

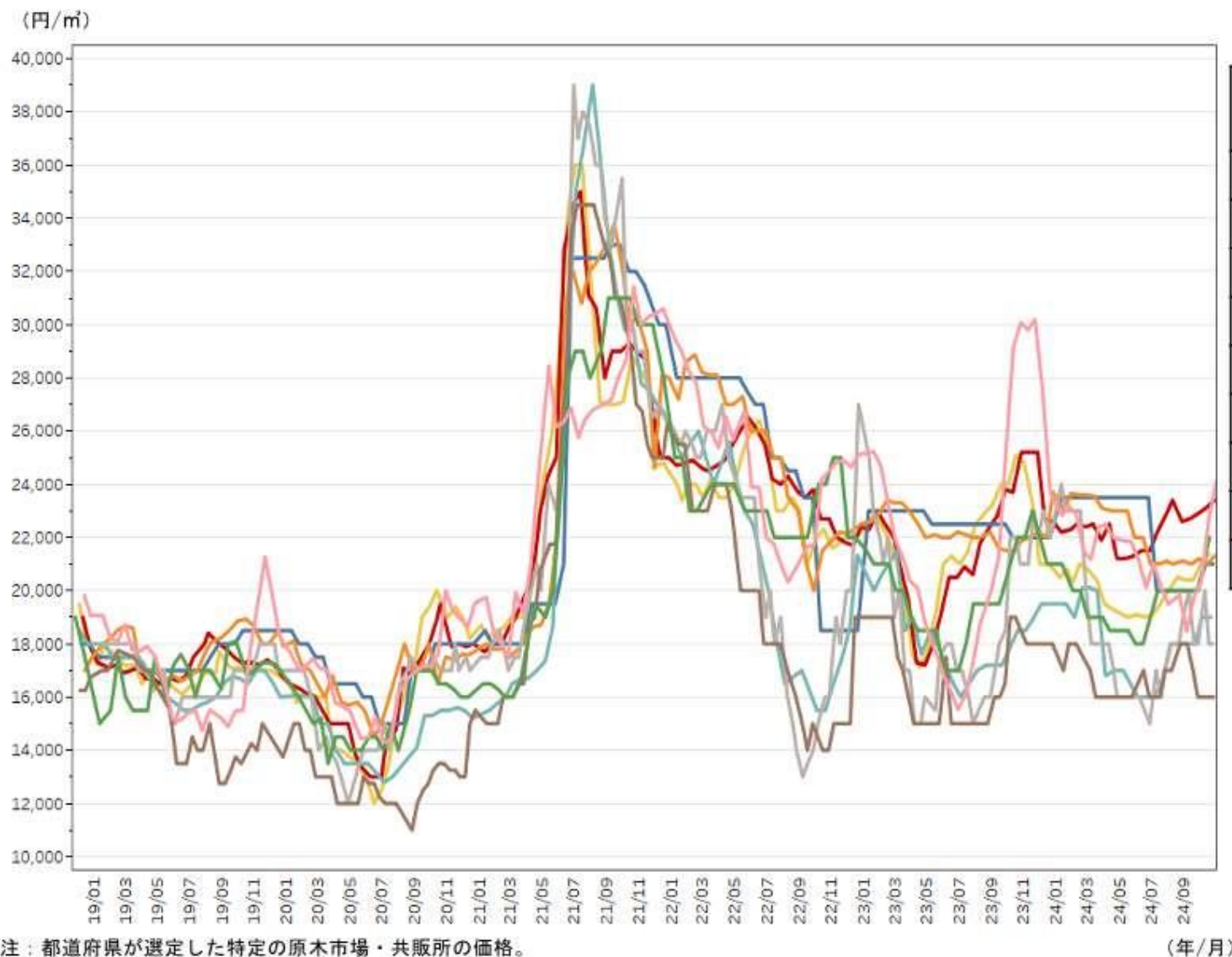
注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、16,000円~24,070円/m³となっている。



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(単位：円/m³)

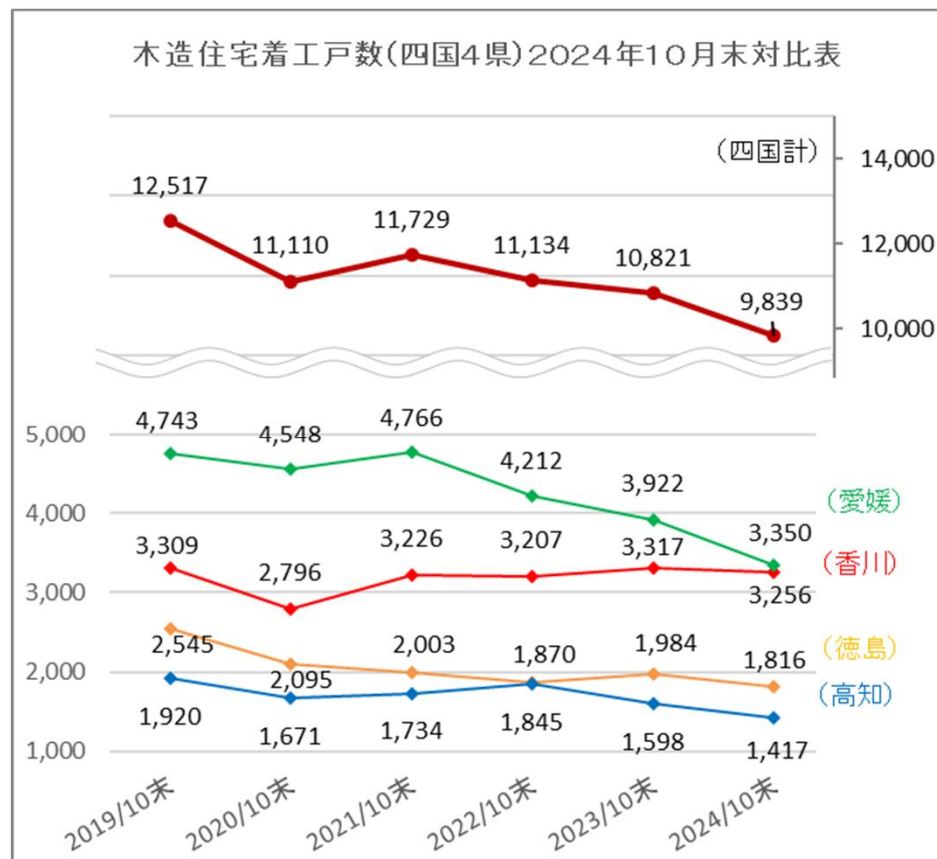
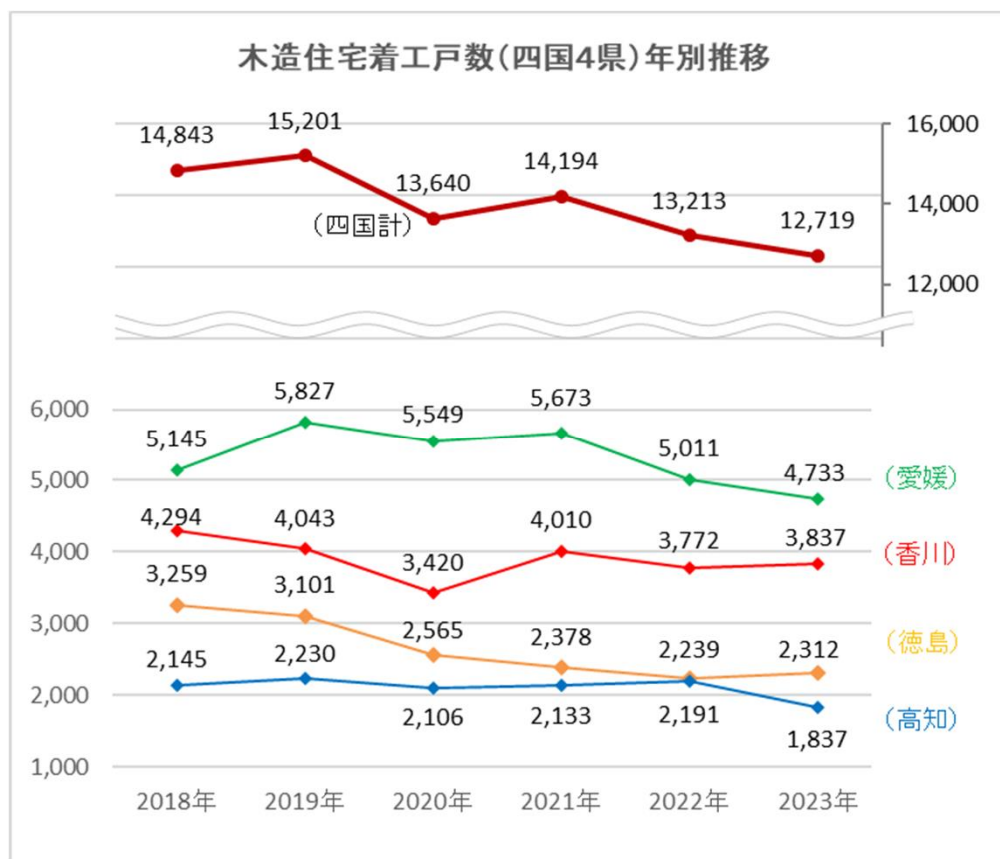
都道府県	2024年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	24,070	30,070	80%
静岡県	22,000	22,000	100%
兵庫県	16,000	18,500	86%
岡山県	18,000	21,000	86%
広島県	19,000	18,500	103%
愛媛県	21,300	21,900	97%
高知県	21,000	22,000	95%
熊本県	23,400	25,200	93%
大分県	21,400	25,100	85%

※各県10月の値を使用。

IV 住宅着工戸数

1 四国における木造住宅着工戸数の推移

- 四国における2023年1月～12月の木造住宅着工戸数は、12,719戸（前年比96.3%）となり、2022年に続き過去10年間で最も低い水準となった。
- 四国における2024年10月末の木造住宅着工戸数は、9,839戸（前年比90.9%）となり、近年は下落傾向が続いている。
- 直近の県別をみると、徳島県（前年比91.5%）、香川県（前年比98.2%）、愛媛県（前年比85.4%）、高知県（前年比88.7%）と4県すべてで前年を下回った。

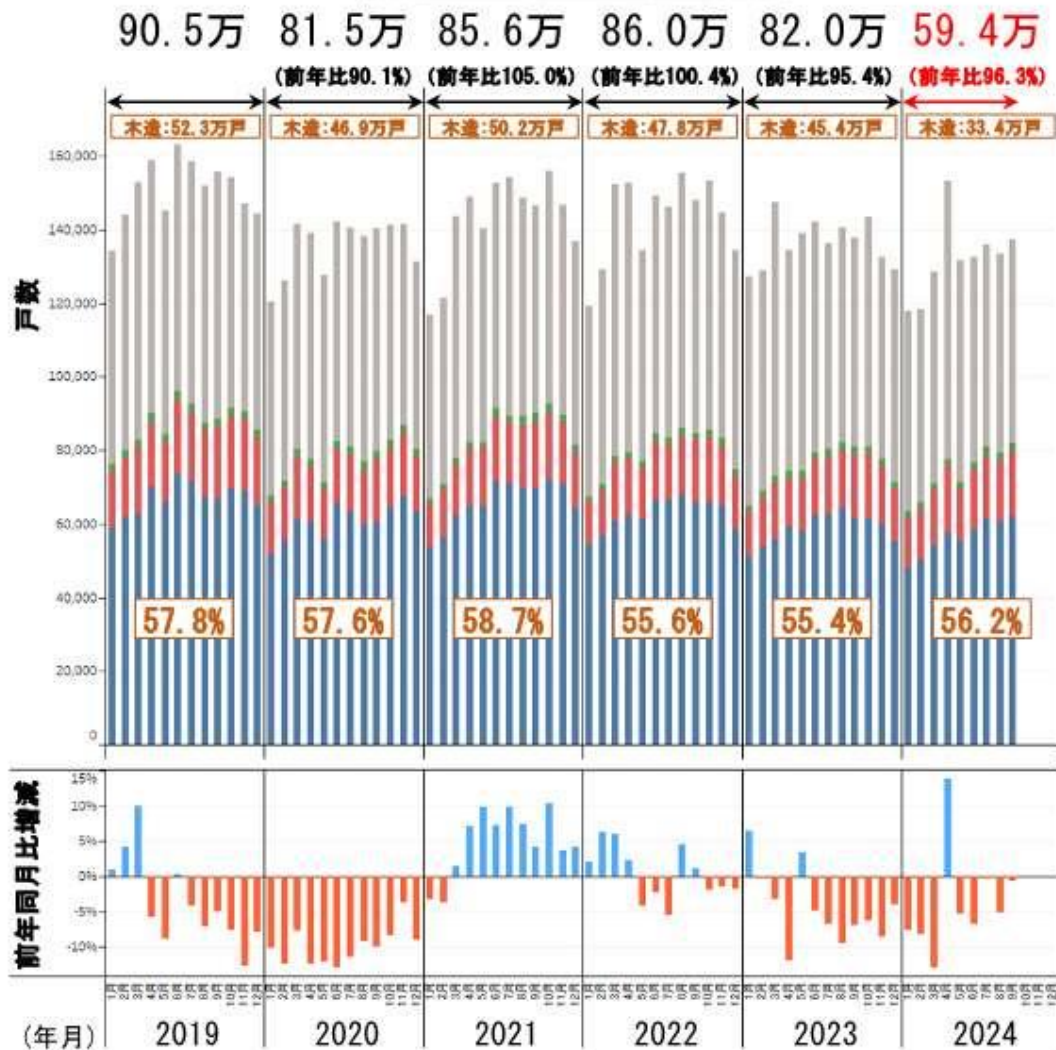


資料：国土交通省「住宅着工統計」

2 全国の住宅着工戸数の推移 (2019年1月～2024年9月)

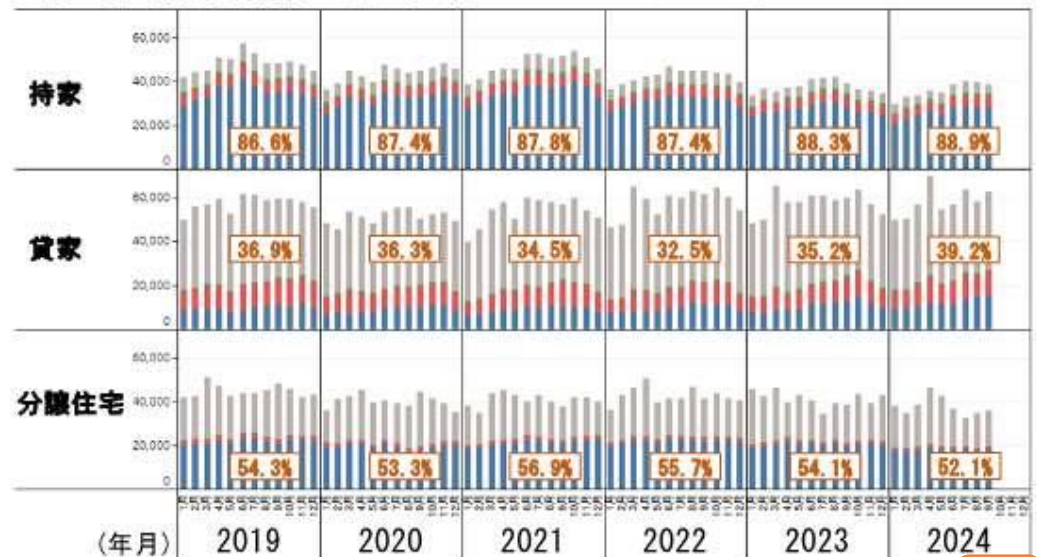
- 2023年の新設住宅着工戸数は、82.0万戸（前年比95.4%）、このうち木造住宅は45.4万戸（同95.1%）となり、2022年の水準を下回った。
- 2024年1～9月の新設住宅着工戸数は、59.4万戸（前年同期比96.3%）、このうち木造住宅は33.4万戸（同98.5%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2024年 1～9月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	594,407	617,030	96.3%	643,318	92.4%
■非木造	260,227	277,638	93.7%	287,413	90.5%
木造	334,180	339,392	98.5%	355,905	93.9%
■木造プレハブ	7,967	7,869	101.2%	7,336	108.6%
■2×4	71,659	66,630	107.5%	67,004	106.9%
■在来軸組	254,554	264,893	96.1%	281,565	90.4%
□木造率	56.2%	55.0%		55.3%	

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

分析結果

(ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

(調査月 令和6年7月～令和6年10月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続(5ヶ月以上)

(調査月 令和6年7月～令和6年10月)

【スギ中丸太】 ・ 10月現在、5ヶ月以上連続した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 10月時点で7ヶ月連続の下落。

(ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

(調査月 令和6年7月～令和6年10月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

(調査月 令和6年7月～令和6年10月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

(調査月 令和6年7月～令和6年10月)

【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

〔判断基準・指標〕

- 「定常範囲を逸脱する動き」については、国有林材の供給調整機能検討事業調査報告書（平成24年9月28日(財)日本木材総合情報センター）に示された統計的な判断基準、指標を参考とした
- 使用データ：「国内企業物価指数」（日本銀行統計）
「木材価格」「製材統計」（農林水産省統計）

○ 丸太価格、在庫率の変動

1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 5.73%				逸脱下限値 -5.87%				逸脱上限値 21.54%				逸脱下限値 -22.58%				逸脱上限値 17.56%				逸脱下限値 -19.30%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月				
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	0.06%	-0.55%	-1.33%	-2.19%	5	-1	-2	-3	-12.06%	-5.65%	-6.12%	-3.31%	-12.17%	-10.77%	-9.87%	-8.82%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 8.94%				逸脱下限値 -9.21%				逸脱上限値 39.85%				逸脱下限値 -40.82%				逸脱上限値 29.18%				逸脱下限値 -33.05%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月				
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-4.46%	-2.53%	-0.21%	-3.88%	-4	-5	-6	-7	0.12%	-2.08%	-1.92%	-4.16%	-5.06%	-3.91%	-2.10%	-2.33%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率				逸脱上限値		逸脱下限値	
	7月	8月	9月	10月				
スギ製材用素材(徳島・愛媛)	1.17	1.15	1.13	1.13	1.86		0.80	
ヒノキ製材用素材(愛媛・高知)	1.17	1.16	1.13	1.12	1.57		0.89	

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。